



【舞鶴市】史跡田辺城跡



【綾部市】山家城址公園



【向日市】向日神社



【亀岡市】丹波亀山城跡



【大山崎町】「山崎合戦之地」碑

小川立夫画  
「細川忠興と玉子」  
(長岡京市勝竜寺城公園)

細川  
ガラシヤ



細川  
忠興



京都戦乱の

さえずりな

— 四人の絆を巡る —



明智光秀公肖像  
(本徳寺所蔵)

明智  
光秀



細川幽齋公肖像  
(天授庵所蔵)

細川  
幽齋



【京丹後市】細川ガラシヤ隠棲地の碑



【福知山市】福知山城



【宮津市】盛林寺



【長岡京市】勝竜寺城公園



# 京都戦乱の

— 四人の絆を巡る —

# さしづな

戦国一の知将であり、領民に慕われた名君 『明智光秀』。

類いまれなる美貌と知性と信念の女性 『細川ガラシャ』。

当代一流の文化人として名高い、古今伝授の相伝者 『細川幽斎』。

ガラシャの夫であり、深い夫婦の絆を示した 『細川忠興』。

これら4人は、激動の人生を生きた父と娘、父と息子、そして夫婦であり、

その後の日本の歴史に大きな影響を与えました。

ゆかりの地である京都市内9市町と隣接する兵庫県2市では、行政と民間団体が協働で、

光秀・ガラシャ・幽斎・忠興の大河ドラマ誘致に取り組んでいます。

細川幽斎公肖像  
(天授庵所蔵)

## 細川 幽斎

(1534-1610)



足利家・信長・秀吉・家康とめまぐるしく移り変わる戦国の世を類い稀なる才知でぐり抜けた、近世細川家の祖。剣術、弓術などの武芸に秀で、優れた武将であったとともに、歌道の奥義「古今伝授」の相伝者であり、様々な芸能や故実にも造詣が深く、当代一流の文化人として名高い人物であった。

明智光秀公肖像  
(本徳寺所蔵)

## 明智 光秀

(1526 ? -1582)



織田信長の家臣として活躍した明智光秀は、教養豊かで誠実、知将としても知られる。光秀は無骨一辺倒の人物ではなく、戦いの中には一流の文化人たちを福知山城や坂本城に招き、茶会や連歌会を頻繁に催していたようで、教養の高い文化人でもあった。

盟友

父と息子

## 四人の絆を巡る

父と娘

小川立夫画  
『細川忠興と玉子』  
(長岡京市勝竜寺城公園)

## 細川 忠興

(1563-1646)



武将、大名として活躍し、現在まで続く肥後細川家の基礎を築いた。また、父幽斎と同じく文化人としても有名で、中でも茶人としては千利休の高弟「利休七哲」の一人に数えられ、三斎流の開祖でもある。正室の玉(後のガラシャ)と美男美女夫婦で、妻への愛情は大変深かったといわれている。

夫婦

小川立夫画  
『細川忠興と玉子』  
(長岡京市勝竜寺城公園)

## 細川 ガラシャ (玉)

(1563-1600)



細川ガラシャは、戦国時代にその名を残す数少ない女性の一人で、大変美しく、かつ頭脳明晰で、強い意志を持った女性であったといわれている。父光秀の本能寺の変や、味土野への幽閉など数々の苦難の中で、キリスト教に心の平安を見だし、人間愛を貫いた。

父と娘



# 絆を巡る ゆかりの地



## 細川ガラシャ隠棲地の碑

### 【京丹後市弥栄町須川】

弥栄町野中集落から山道を進んだ味土野地区にガラシャの隠棲地がある。ガラシャが2年間幽閉された女城跡地には「細川忠興夫人隠棲地」と刻まれた記念碑が残る。



## 史跡田辺城跡

### 【舞鶴市字南田辺】

関ヶ原の合戦の前哨戦として、細川幽斎率いるわずか500人の軍勢が、石田三成方1万5千の大軍に対し、約1カ月半にわたり籠城。現在は資料館を備えた公園となっている。



## 盛林寺

### 【宮津市字喜多】

天正5(1577)年に丹後守護一色氏の重臣小倉播磨守の菩提寺として創建。天正8(1580)年に丹後国守となった細川家とも良好な関係を結び、天逝した細川幽斎の子菊童の肖像画、明智光秀の首塚などを有する。



## 山家城址公園

### 【綾部市広瀬町】

山家城は、本能寺の変後に谷衛友が築城したもの。関ヶ原の戦いで、衛友は細川幽斎の田辺城の包囲に加わったが、歌道の師匠である幽斎に内々に通じていたため、戦後も徳川家康から所領を安堵されたといわれている。現在は、桜や梅などが植栽された公園となっている。



## 福知山城

### 【福知山市内記】

天正7(1579)年の丹波平定後、丹波の奥郡・丹後の押さえとして明智光秀が築城。本格的な石垣作りで瓦葺の天守閣を持つ。城には腹心の明智秀満を置いた。



## 丹波亀山城跡

### 【亀岡市荒塚町】

天正7(1579)年に明智光秀が築城し、本能寺の変ではこの城から出陣。歴史的な京町家やなまこ壁の街並みが残る城下町では、毎年5月3日に武者行列が練り歩く「亀岡光秀まつり」が開催される。



## 黒井城跡

### 【兵庫県丹波市春日町黒井】

明智光秀と戦った赤井兼右衛門直正の居城。直正病死後、天正7(1579)年に落城。その後齊藤利三の領土となり、城下にあった下館(現・興禅寺)はその娘、春日局生誕の地として有名。



## 向日神社

### 【向日市向日町北山】

奈良時代の養老2(718)年創建と伝えられ、本殿は、「三間社流造」という建築様式で国の重要文化財に指定されている。細川ガラシャや明智光秀などが活躍した戦国時代にも地域の信仰の中心的存在であった。



## 八上城跡

### 【兵庫県篠山市八上内ほか】

波多野氏が本拠とし、その美しい形から丹波富士と呼ばれる高城山に築かれた。八上城は難攻不落の戦国山城で、4年に亘る二度の明智光秀の丹波攻めにより天正7(1579)年に落城。平成17(2005)年に国の史跡に指定された。



## 勝竜寺城公園

### 【長岡京市勝竜寺】

暦応2(1339)年に細川頼春が築城したと伝えられる。明智光秀の娘、玉(後のガラシャ)が細川忠興に嫁いだ城で、山崎の合戦では光秀が本陣を構えた。跡地は資料室等を備えた公園となっている。



## 「山崎合戦之地」碑

### 【大山崎町大山崎排ノ口】

通称「旗立松」。明智軍と羽柴軍が天王山を取り合った際、羽柴軍は馬印を立てて合戦を有利に展開させたといわれる。勝負の分かれ目を指す「天王山」という表現はここからきている。現在は主戦場を眺める展望台がある。





光秀ガラシヤ 幽斎忠興

# ゆかりの

# まつり

亀岡市では、毎年5月3日に「亀岡光秀まつり」、舞鶴市では、毎年5月の最終日曜日（土曜日（前夜祭））に「まいづる細川幽斎田辺城まつり」、長岡京市では、毎年11月の第2日曜日に「長岡京ガラシヤ祭」が開催されます。

## 亀岡 光秀まつり

亀岡市

戦国時代の知将・明智光秀は、初代丹波亀山城主として丹波亀山を治め、今日の亀岡の基礎を築きました。亀岡光秀まつりは、この光秀の遺徳を偲び、顕彰する市民あげての一大まつりです。

毎年5月3日に、光秀の勇壮な武者行列を再現する「明智光秀公武者行列」が城下町周辺を練り歩きます。また、巡行コース界限における「にぎわい茶屋」、JR亀岡駅近くの南郷公園でのイベントなど、多彩なイベントが目白押しです。



## まいづる細川幽斎 田辺城まつり

舞鶴市

細川幽斎が、わずか五百の兵で約1ヵ月半籠城を続け、一万五千の西軍を釘づけにした、関ヶ原の戦いの前哨戦として知られる「田辺城の戦い」の歴史などを伝えるまつりとして、毎年5月の最終日曜日（土曜日（前夜祭））に舞鶴公園（史跡田辺城跡）を中心に開催されます。

まつりは、田辺城の城門が平成4（1992）年に再建された際の完成イベントとして始められ、武者行列や籠城の経緯を芝居仕立てで紹介するイベントなど、盛りだくさんの内容となっています。



## 長岡京 ガラシヤ祭

長岡京市

長岡京市が誇るべき重要な歴史遺産の一つである勝龍寺城が、平成4（1992）年に勝竜寺城公園として復興したのを記念して、天正6（1578）年に細川忠興に嫁いだ明智光秀の娘「玉」、後の細川ガラシヤ夫人の「愛と感動の物語」を象徴した市民のまつりとして始められました。

まつりは、「お輿入れ行列」や「歴史文化行列」、「町衆祝い行列」などが市で行われるほか、多くの団体の参加により「楽市楽座」が行われます。毎年11月の第2日曜日に開催されます。





# 光秀・玉(ガラシャ)・幽斎(藤孝)・忠興略年譜

和暦 (西暦)	関係事項	和暦 (西暦)	関係事項
天文12 (1543)	明智光秀、熙子と結婚。	天正10 (1582)	6月2日本能寺の変。明智光秀、細川藤孝父子を誘う。6月13日明智光秀死去。ついで明智一族、坂本城で滅亡。玉、味土野に幽閉される。9月8日細川氏、一色五郎を饗応し、謀殺する。幽斎(藤孝)、舞鶴に田辺城を築く。忠興の側室、おこぼを産む。
永禄6 (1563)	玉、明智光秀の娘として、越前国に生まれる。	11 (1583)	玉、味土野で暮らす。清原いと等玉に仕える。玉、次男興秋を産む。
元亀2 (1571)	光秀、惟任日向守となり、近江坂本十萬石を領有。玉、近江坂本城に移る。	12 (1584)	玉、幽閉をとかれ宮津に戻る。のち大坂玉造の細川邸に移る。
4 (1573)	細川藤孝、桂川西地を「一職」に拝領。	14 (1586)	玉、三男忠利を産む。
天正3 (1575)	織田信長が光秀に丹波・丹後両国の平定を命じる。	15 (1587)	4月忠興等、秀吉の命により九州の島津氏討伐に向う。忠興不在中に玉入信し、ガラシャの霊名をもらう。
6 (1578)	玉、信長の命により、勝龍寺城主細川藤孝の長子・忠興に嫁す。	16 (1588)	ガラシャ(玉)、二女多羅を産む。
7 (1579)	光秀の義母、人質として殺され、信長との隔絶深まる。玉、長女長を産む。	慶長3 (1598)	ガラシャ、三女まんを産む。
	光秀、丹波・丹後の両国を平定。	5 (1600)	6月27日忠興、徳川家康配下として上杉景勝討伐のため、宮津から関東に出立。7月17日ガラシャ、石田三成から人質になるよう求められたが拒否し、大坂屋敷で自刃(38歳)。 7月20日幽斎、宮津城を自焼し、田辺城に籠城。9月幽斎、田辺城開城。9月15日忠興、関ヶ原合戦に出陣。
8 (1580)	玉、長男熊千代(忠隆)を産む。信長は光秀に丹波、細川藤孝・忠興に丹後を与える。 8月2日藤孝父子、勝龍寺城から八幡山城に移る。また宮津に平城を築く。		10月忠興、建仁寺でガラシャの侍女と対面。ガラシャの最後の様子を知る。
9 (1581)	4月12日光秀、茶人津田宗及、連歌師里村紹巴等と細川氏の招きで宮津に来る。九世戸天橋立を遊覧。	正保2 (1646)	12月細川忠興、死去(83歳)。

## ※参考文献

田端泰子(2010)ミネルヴァ日本評伝選 細川ガラシャ―散りぬべき時知りてこそ― ミネルヴァ書房

[制作]公益社団法人 京都府観光連盟 [協力]NHK大河ドラマ誘致推進協議会

